

＜ 運営推進会議における評価 ＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人鳥伝白川会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護ゴン
所在地	(〒906-0006) 沖縄県宮古島市平良字西仲宗根 1496-7		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・主治医と看護小規模多機能居宅介護事業所(看多機ゴン)の密接な連携の下、医療行為も含めた多様なサービスを 24 時間 365 日利用することができる
- ＊がん末期の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続支援、家族へのレスパイトケア、相談対応による不安の軽減、退院後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援
- ・看護小規模多機能居宅介護事業所の介護支援専門員が「通い」「泊り」「訪問(看護・介護)」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができる

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 1 月 26 日	従業者等自己評価 実施人数	(15)人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	-------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 23 日	出席人数(合計)	書面にて意見集約し、会議にて確認
書類配布(内訳)	■市職員(1人) ■地域包括支援センター職員(1人) ■地域住民代表者(1人) ■利用者家族(1人) ■自治会長(1人) ■知見を有する者(1人) ■居宅介護支援事業所職員(1人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員一人一人が事業所の理念と地域における役割を理解した行動がとれる ② 専門職として統一したケアを提供するためスキルアップを図る ③ 職員が安心、安全に働くことができる環境の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業所理念の掲示、入職時オリエンテーションでの説明 ② 年間計画に沿った1回/月の勉強会・ケアミーティングを開催し、意見交換。デスカンファレンスにてケアの振り返り。喀痰吸引等資格取得の推進し夜勤するすべての職員が資格取得 ③ 有給休暇、特別休暇、看護休暇の取得推進。BCP作成 	<ul style="list-style-type: none"> ① 改善計画に向かって職員一同が日々の業務やミーティングの中で、理念に基づいた行動ができるよう取り組んでいると評価する ② 様々な病期の方への統一したケアにむけ取り組み、振り返りも行った。しかし、職員全員統一したケアや質の高いケアの提供に向けては次年度も継続した取り組みが必要である ③ コロナクラスターを経験し混乱することもあったが、職員が安心して働く環境の提供はできた 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者、家族に寄り添い意向を把握する ② 他職種の専門性を活かしたその人らしい生活を支えるためのケアの提供 ③ タイムリーな介護計画書の作成、変更 ④ KYTによる安全文化の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ① 送迎時や訪問時を活用し意向確認 ② 1回/月のケアミーティングにて介護、看護が意見交換し方針を決定 ③ 介護計画書の更新月日を掲示。主任より作成のアドバイス ④ インシデント対策の検討、KYT実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①②常に利用者、家族の意向を大切に医療と介護の両面から考えた意見交換ができています ③タイムリーに計画書に反映、具体策が不足などあり改善 ④ KYTに関する考え方は理解できたと思うが継続して行う必要がある
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	① ケアマネ連絡会や介護福祉士の会などに参加し、横の連携を図る	① ケアマネ連絡会は定期的に参加。小規模連絡会、研修会、情報交換会への参加。感染防護具支援プロジェクト	① ②コロナ禍で横の連携を深める活動はあまりできなかったが、情報交換やつながりを持つことはできた 年々、ZOOMなどを使った研修の形

		② コロナ禍での新規利用者受け入れ時、退院調整時の情報交換方法の構築	トの活動と防護具の配布により情報交換 ② コロナ流行期以外での退院前カンファレンス参加。病院・施設への受け入れのための面会実施。携帯動画を活用し受け入れ前の利用者の様子を情報共有	も定着し、情報共有も徐々に円滑になっている。次年度はさらに連携しやすくなると思われる
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	① 自然災害発生時、新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画(BCP)策定と運用 ② 事業継続計画(BCP)を地域で共有する仕組みづくり ③ 地域の抱える課題に対し、解決に向け事業所全体で一緒に取り組む	① 新型コロナウイルス感染症発生時のBCPは職員参加型で策定。自然災害発生時のBCP作成中 ② 地域住民や役所と災害時の対応について意見交換の機会を持った ③ 自治会行事への参加。地域説明会実施。介護事業所としての問題提起の場の設定	① 新型コロナウイルス感染症発生時のBCP策定はしたが、活用には至っていない。コロナ禍で地域に還元できないような取り組みは行っていくことが期待されている ② 自然災害発生時のBCPはすでにある台風時の対応フローとのリンク、福祉避難所としての役割の明確化にむけ継続して取り組みたい ③ コロナ禍ではあるが自治会行事へのお誘いや地域住民、民生委員とつながりができた。地域住民からの「よくしてもらっている」という言葉をいただくことができ、次年度も前向きに取り組んでいきたい
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		① 介護計画目標達成率 70%を目指す ②利用者、家族のサービス利用に対する安心感についての調査を実施し、事業所	① 具体的な目標を立案。モニタリングを担当介護士中心に複数で実施 ② 看取り後、家族より直接確認、聞き取りより安心感や満足度について確認。デスカンファレンス開催	① 介護計画の目標達成はおおむねできている ② 看取り後の家族の満足の声も多く聞

	内で共有する		かれる。今後は個別性を重視しケアの質をさらに高められるよう取り組んでいきたい
--	--------	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員一同が日々の業務やミーティングの中で、理念に基づいた行動ができ、様々な病期の方へ職員全員統一したケアや質の高いケアの提供に向けては次年度も継続した取り組みが必要である。また、今年度はコロナクラスターを経験したが、職員が安心して働く環境の提供はできた	① ケアの質向上にむけ取り組み、ミーティングやカンファレンスを活用し、日々のケアを統一する ② すべての職員が BCP を活用し、看多機の理念に沿った行動ができる
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	① 利用者の意向、家族の意向の両面からアセスメントしたサービス利用、介護計画を立案、実施する ② 介護職と看護職の専門性を活かし、意見交換、情報共有し協働でケアに関わる
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	① 家族の介護力を引き出し、家族と共に利用者の在宅生活が維持できるよう関わる ② 運営推進会議や虐待防止委員会などを活用し、地域の多職種と関わり情報共有する
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	① SNS（ホームページ）を活用し、情報発信していく ② ボランティア活動、自治会行事への参加、相談会の開催など地域住民との交流の機会を増やす

III. 結果評価 (評価項目 42～44)	介護計画の目標達成はおおむねでき、看取り後の家族の満足の声も多く聞かれる。今後は個別性を重視しケアの質をさらに高められるよう取り組んでいきたい	① 病状に変化があった時の対応について振り返り、改善点があればすぐに対応する ② 看取り期を迎えた利用者に対し、看取りの場や本人家族の思いを丁寧に確認、記録し、最期を多職種で支える
---------------------------	---	---

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	<p>○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている</p>	○				<p>・理想的な看多機サービスを提供する意気込みが感じられて頼もしい</p>	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所理念をフロアに掲示し、入職時のオリエンテーションにも組み込んでいる ・吸引、経管栄養、人工肛門、CPAP等医療的ケアを必要とする利用者を受け入れ、在宅生活を支援している ・訪問、通い、泊りを組み合わせた看多機としての機能を果たしている ・多職種と連携しながら個別ケアを取り入れサービス提供している ・家族と一緒にケアし、介護指導をする 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当利用者に対し理念を念頭に置き、介護計画書を作成している ・ケア内容を検討する場面で理念をもとにした話し合いをしている ・あまりできていないという意見も少数あった 					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な		○			・職員採用が難しい中、いろいろ計画的に頑張っている	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	育成計画などを作成している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> 個人面談の中で、職員の立てた目標に対し管理者がアドバイスし、目標決定している。また、年度末には職員の自己評価に対し、管理者は他者評価を行い、個人の成長を共通認識できる仕組みにしている 新入職者へは教育訓練計画を作成し指導しているが介護技術について指導があまりない、計画が活かされていないと感じている職員もいる 				ことに頭が下がります	<ul style="list-style-type: none"> ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会、研修会を定期的で開催し全体の底上げや意識の向上を図っている 内部研修では年間計画を立てているが虐待防止やハラスメント、感染対策などその時期に合わせた内容に変更しながら開催している 外部研修の案内を掲示し参加を募っているが連絡が行きわたっていないと感じている職員もいた 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の推奨と勤務調整、経費助成など積極的に行っている 外部研修を受ける機会が減ったという意見はあるが、リモート形式で受ける環境（貸し出せるパソコン）は準備している オンデマンド研修環境を月梨、個人でいつでも学べるように管理している 					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ミーティング内での検討事項等の伝達を全体に浸透させるのはなかなかだと思えますがよく工夫していると思えます 口腔ケアや、誤嚥性肺炎についてなど研修会や勉強会の開催を検討してみてもどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要		○			✓ 「得られた要望・助言等のサービ	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている						スへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・意見、要望をうけ次年度の取り組みに反映している ・紙面開催が多く、一方的に情報提供することが多かった					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・年次有給休暇の積極的取得の促進や特別休暇や看護休暇の活用ができています ・状況に応じて就業規則の内容を変更し働きやすい環境づくりをしている ・それぞれに合った働き方ができるよう勤務表作成時より配慮している ・休み希望に沿った勤務表作成ができています ・勤務者の急な休みにも職員同士が協力しながら安全に働けている ・管理者との定期的な面談があることで相談したり思いを話せる機会があり安心して働けているとの意見もあった					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○					<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝礼、終礼、申し送りノート、利用者日報を活用し共有できる ・話し合いが必要な場合は終礼を活用し当日中に解決、情報発信している ・毎日、SNSを活用しての共有も図っている ・勤務内での情報共有は日々のリーダーを中心に職員間で声を掛け合うようにしている ・共有する仕組みを増やし定着はしたが内容を見ていない場合もある 					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保の		○			<p>その都度職員間で話し合いがもたれ対応されているこ</p> <p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデントについての話し合い、予防対策はタイムリーに行い、職員間で共有している ・ヒヤリハットに対しても対策を話し合い予防策を検討している ・安全運転への意識づけの目的で外出前に安全運転宣言をしてから出発するルールの定着化 ・定期点検に加え、車両等の不具合があれば使用を中止し、早急に点検を行っている ・全車両にドライブレコーダーを設置している ・事故があった場合の対応フローをすべての車両に設置 ・KYTを実施している 				とに利用者様も安心しているでしょう	対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	○				各 BCP の作成お疲れさまです。現実に活用されないといいますが	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・職員連絡網が随時更新され職員間に周知されている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
						<ul style="list-style-type: none"> ・感染症用 BCP は完成し、現在、自然災害用 BCP の作成に取りかかっている ・台風時のフロー、利用者連絡先リスト、職員連絡網を掲示している ・管理者、介護支援専門員等が中心になり利用者に対し細かな連絡調整を行っている ・誰でも台風対策ができるようチェックリスト作成、都度更新 ・医療材料の確保は担当者により定数チェック、発注が行われ担当者がもできるようルールを説明、掲示している 	療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員と情報共有しながら家族の要望を聞き、必要なサービス提供につなげている ・家族の介護力に応じ訪問時間をずらしたり回数を増減するなど対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							<ul style="list-style-type: none"> 定期的にあセスメントを行っているが介護者に対するアセスメントはやや弱く、スタッフによってばらつきがあると感じている職員もいた
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・介護計画書を作成し対応している ・利用者、家族から直接聞き取ったり、介護支援専門員から情報を得て介護計画を作成している ・担当者会議に担当介護士が参加し情報を得る機会を確保している ・利用者、家族の意向は随時把握している					利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏ま		○				✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	えた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日々の状態を観察し気になる事は看護師に報告し意見をもらっている。計画立案時はそれを踏まえ計画している ・必要に応じた意見を取り入れたケアプランを作成している ・変化がある部分は予測しながら計画書に記載するよう心掛けているが介護計画書に状況変化の予測が不足しているときがある					評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・職員間で情報交換し早期に対応、実践している ・状況の変化にあわせサービスの調整を柔軟に行っている ・コロナ禍の影響もありバイタルに異変がある場合の対応、情報共有は迅速になった ・皮膚トラブル時、介護、看護で話し合	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		い対処している ・退院後や状況変化時、介護認定の変更 時などケアプランは適宜見直している					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主		○			・情報共有の機会に口腔ケアの面から歯科医として参加	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	<p>治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている</p>	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内では1回/月 多職種参加のミーティングにて情報共有しケアの方向性を話し合っている ・事業所外では1回/週法人主治医と看護師にて情報共有の機会を持っている ・状態変化時は迅速に主治医へ連絡しタイムリーに情報共有している ・担当者会議でも主治医や福祉用具業者と情報共有している 				<p>する機会を持つようにしていきます</p>	<p>関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
<p>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</p>							
<p>① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供</p>							
19	<p>○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている</p>		○			<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度の高い利用者は看護職のアセスメントを重視し、それをもとに介護職が専門性を発揮しケアの中心を担っている ・互いに尊重しあい責任感を持ってケアしている ・専門性は活かしているが業務の状況に 	<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		応じた柔軟な役割分担が不足する場合も 見られるとの意見も目立った					
20	○ 利用者等の状況について、 介護職と看護職が互いに情 報を共有し対応策を検討す るなど、両職種間の連携が 行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・変化があったり気づいた事があれば 日々の終礼で情報共有し、対応策を検 討している ・定例のミーティングを活用し担当介護 士が中心となり職員の全体意見を盛り 込みケアの方針を決めている ・連携不足感じているという意見もある					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員より重要事項について、サービス内容に関して細かく説明されている ・担当介護士よりケアの内容については介護計画書をもとに具体的に説明がされている ・理解不足に感じられる場合はその都度追加説明を行っている 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員より在宅生活の継続に向けた説明やアドバイスにて理解を得ている ・介護計画書の中に留意すべき点を記載し、本人と家族に説明し理解を得ている。しかし、わかりやすさに欠けているという意見もあった ・転倒の多い利用者の自宅の環境整備等 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		説明している ・わかりやすく説明するために言い方や言葉を選びに配慮している					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問時、機器の取り扱いや処置を行う際は説明、指導をしながら行っている ・退院後は臨時で自宅に訪問したり、電話で伝えるなど理解するまで繰り返し説明している					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問時や送迎、泊り時など聞き取った希望や意向は介護支援専門員へ報告、スタッフ間で共有しサービス内容に反映させている ・自分の「何かしてあげたい」気持ちが強くなりすぎていないか気になる時もある					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員や管理者が新規受け入れ時や病状悪化時、看取り期に十分なアセスメントをし、話し合いながら進めている ・日頃より介護支援専門員は介護士や看護師からの情報を得、利用者等との話し合いができている 					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の方の口腔ケアに歯科医として見学したい→事業所としてもアドバイスをいただきながら連携していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者や介護支援専門員が退院前カンファレンスに参加し受け入れ準備をしている。しかし、コロナ禍にて紙面での報告が多く、電話、携帯動画撮影などで補い情報共有を図っている ・病院、施設へ訪問し面会できたケースもあった ・管理者、介護支援専門員が家族との面談は早めに行っている ・入院時は情報提供し、連携室と情報交換している ・担当者会議を行い、利用者の全身状態が情報と違っていたり介護量が予想より多い場合は即サービスを変更し、対応している 					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生す
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時すぐに主治医（または病院）連 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		絡できる体制になっている ・緊急時、夜間・休日も待機ナースが訪問できる体制になっている ・法人内主治医とは1回/週は定期的に共有できる体制にしている					る前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○					✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・休日夜間含め、看護師が24時間体制で連絡、訪問できる体制であり、医師の往診や救急車対応など急変時にも即対応できている					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことが
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・管理者を中心に行政、地域の代表者等多様な人材参加の会議の中で情報提供、提案が行われている ・その内容等についても紙面等で各部署					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		等に情報提供がされている					ない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や 町会長などの住民代表も対象で す
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている		○				✓ 「誰でも見ることができる方法 での情報発信」と「迅速な情報発 信」の2つの視点から、充足度を 評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ファイルしているが職員へ閲覧につ いての周知はされていない ・運営推進委員へは資料を配布し、事業 所に持ち帰り閲覧してもらっている					
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等につ いて、正しい理解を広めるた め、地域住民向けの積極 的な啓発活動が行われている		○				✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や 「地域説明会の実施」などの取組 が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] ・コロナ禍の状況の中、積極的な活動は できていないが美化活動やボラン ティア活動などには取り組んでいる ・管理者が中心となり、自治会の行事に 参加し、顔の見える連携の輪が広 がっている ・地域住民との交流の場が増え、事業所					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		の説明や介護相談など気軽に話せる関係性ができている					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
④ 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
						・利用者の泊りにもほぼ制限なく対応できている	できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPPV 利用者のみ受け入れしている ・IPPV 利用者の受け入れは今のところなし。受け入れには看護体制の整備が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・24 時間体制は整備され医師、看護師、介護士間で連携し積極的に受け入れしている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲		○				✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・管理者は理解しているが職員はあまり意識せず仕事に従事している ・勉強会にて理解を深めるように努め地域密着事業所の職員としての責務を果たしている					✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」	
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開								
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・宮古島市全域を対象にサービス提供している ・集合住宅等からの依頼はない	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
⑤ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等								
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○				<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・管理者が地域住民に対し介護現場における課題や問題提起や改善策を提案す	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
						<ul style="list-style-type: none"> る機会を持った ・福祉避難所として同地域の福祉避難所と顔合わせの機会が持てた 	<p>とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			<p>・介護指導（口腔ケア）について家族や近隣住民に対してぜひ進めてほしい</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は近隣住民と交流の機会を持つことができているが、職員はできていない ・家族への介護指導を行っている ・家族に対してケア方法の説明やアドバイス等を行っている 	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の目標を決め達成に向け取り組んでいる ・定期的、又は適宜利用者の状態変化を見ながら計画の見直しも行うよう指導しているが、短期目標に変化がなかったり、担当から計画目標内容が周知されず目標達成できなかつたりする利用者もいる 		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>	・ さすがです	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・急な状態の変化にも24時間体制でサービスを迅速に調整してくれて安心の声を聴くことが多い ・医師、看護師を中心に多職種と連携し対応している		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている ③. 利用者の1/3くらいについて、達成されている ④. 利用者の1/3には満たない ⑤. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療と介護が24時間対応できる仕組みである ・家族の希望に合わせて看取りの場を決定している ・訪問時の状態をタイムリーに報告しあい次の訪問に活かしている ・家族とも自宅及び事業所内での状態等情報交換、共有しながらともにケアを行っている	・ さすがです	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」